

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（30社）

ティーケーピー、GA Technologies、GMO フィナンシャルゲート、プラスアルファ・コンサルティング（新規）（注1）、ENECHANGE、スパイダープラス（新規）、ビジョナル、エクサウィザーズ（新規）、コアコンセプト・テクノロジー（新規）、セーフィー（新規）、ワンキャリア（新規）、スマレジ、カオナビ、ミンカブ・ジ・インフォノイド、BASE、フリー、マクアケ、JTOWER、ヘリオス、I-ne（新規）（注2）、日本電解（新規）、弁護士ドットコム、オキサイド（新規）、QD レーザ、NexTone（新規）、Macbee Planet、HYUGA PRIMARY CARE（新規）、ウェルスナビ、アイドマ・ホールディングス（新規）、ブシロード（再評価）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注1） グロースからプライムへ市場変更した（2023年7月）。

（注2） グロースからプライムへ市場変更した（2023年9月）。

2. 対象企業の選定方法および評価方法

(1) 対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの4つの市場に上場している企業（注1）の中で、時価総額が上位（注2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注3）が一定数以上の30社（昨年度同数）とした。なお、30社のうち、継続評価企業が17社、新規評価企業が12社、再評価企業（2年以上前に評価対象としたことがある企業）が1社となっている。

（注1） アナリストへのスコアシート発送時点（本年5月下旬）で、上場後1年未満の企業は除外した。

（注2） 昨年11月末時点の時価総額を基準とした。

（注3） 本年1月に当協会が証券会社等に新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

(2) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		13	100

（注） 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（3） 評価実施アナリストは62名（所属先28社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG 関連**の項目内容を見直し、新規評価（12社）および再評価（1社）の企業もあるため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 68.8 点（昨年度 67.7 点）、総合評価点の標準偏差は 5.9 点（昨年度 6.4 点）であった。
- ② 総合評価点については、70 点台が 14 社（昨年度 10 社）、60 点台が 14 社（昨年度 16 社）、50 点台が 2 社（昨年度 4 社）となり、昨年度に続き 80 点台以上はなかった。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%（昨年度 73%）、**説明会等**が 69%（昨年度 68%）、**フェア・ディスクロージャー**が 73%（昨年度 72%）、**ESG 関連**が 59%（昨年度 58%）、**自主的情報開示**が 57%（昨年度 57%）となった。
- ④ 全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 77%（1 項目）、最低で 57%（2 項目）となった。最低となった 2 項目（ESG 関連の中の 1 項目 (a)、**自主的情報開示**の項目 (b)）は次のとおりであった。
 - (a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」（平均得点率 57%）（得点率（評価点/配点（以下省略））：40%台 2 社・50%台 16 社・60%台 12 社）
 - (b) 「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか」（平均得点率 57%）（得点率：40%台 7 社・50%台 8 社・60%台 11 社・70%台 4 社）
- ⑤ ESG 関連の 3 項目の平均得点率を見ると、1 項目（上記④(a)）が 50%台、次の 2 項目が共に 60%と、いずれの項目も低水準となった。
 - ・ 「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 60%）（得点率：40%台 2 社・50%台 11 社・60%台 15 社・70%台 2 社）
 - ・ 「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか」（平均得点率 60%）（得点率：30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 11 社・60%台 13 社・70%台 4 社）

(2) 優良企業（上位 3 企業）の評価概要

第 1 位 スパイダープラス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.5 点）

- ① 同社（事業内容：建設業者向け建築図面・現場管理アプリ「SPIDERPLUS」の開発・販売。市場：グロース（2021 年 3 月マザーズ上場）、新規評価企業）は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）83%）、**説明会等**（86%）、**自主的情報開示**（76%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が第 2 位（82%）、**ESG 関連**が第 7 位（63%）、となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」が共に、同得点第 1 位となった。これらに関連して、経営陣と IR 部門の連携が優れていること、投資家・株主からのフィードバックを踏まえ、情報開示を改善している点を評価する声が寄せられた。また、「経営者の IR 姿勢」（同得点第 3 位）も評価された。これに関連して、四半期毎に説明会を開催しており、社長は半期に一度、CFO は毎回登壇し、経営戦略を説明している点を評価する声があった。なお、KPI の定義の説明をもう少し詳しく、他社比較しやすいようにしてほしいとの声もあった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ③ **説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」および「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が共に、最も高い評価となった。これらに関連して、先行投資について、生産性を高めて、今後収益を上げていくという見込みを十分に説明しているとの声があった。「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」（第 3 位）も、評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」が、同得点第 1 位となった。「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行

っていること」は、80%以上の得点率となった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」が第4位となった。「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること」および「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」は共に、平均得点率を上回った。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、最も高い評価となった。これに関連して、カバレッジアナリストとの面談内容の書き起こし文をホームページで開示していることを評価する声が寄せられた。

第2位 GMO フィナンシャルゲート（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 77.3 点〔昨年度比+4.1 点〕、昨年度第6位〕

- ① 同社（事業内容：店舗のキャッシュレス決済端末の提供や決済処理サービスを展開。市場：グロース（2020年7月マザーズ上場）、継続評価企業）は、**経営陣の IR 姿勢等**（83%）、**ESG 関連**（68%）が第2位、**説明会等**が第4位（79%）、**自主的情報開示**が同得点第8位（62%）、**フェア・ディスクロージャー**が第9位（79%）となった。
- ② 経営陣の **IR 姿勢等**においては、「経営陣が、**IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していること**」が、最も高い評価となった。これに関連して、大手企業との提携関係があり、開示が難しい中で最大限の開示をしている点、社長が積極的に **IR ミーティング**に参加し、自身の注力分野について説明していることを評価する声が寄せられた。また、「**IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること**」は、同得点第4位となった。これに関連して、経営陣と **IR 部門**の説明に一貫性があり、コミュニケーションがスムーズとの声があった。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」も、同得点第4位となった。これに関連して、自社の課題をどのように認識し、どうアクションするかを明快に示していることを評価する声があった。これらの結果、この分野において第2位となった。
- ③ 説明会等においては、「**中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること**」が、第2位となった。これに関連して、ロジックが明快であること、説明は十分にされていると評価する声があった。なお、中長期業績見通しの中で、足元の好調要因も説明してほしいとの声もあった。また、「**収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること**」は、80%以上の得点率となった。これに関連して、**フィー売上の分析等**が前回よりも説明が進んだとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「**ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること**。また、**英文による情報提供を行っていること**」は、80%以上の得点率となった。これに関連して、**英語による情報開示のタイムリー性**も改善されたとの声が寄せられた。なお、**データシート**の開示を希望する声もあった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「**資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明していること**」「**経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること**」および「**非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること**」が共に、第3位となった。これに関連して、**株主還元方針**は明瞭と評価する声があった。なお、**親子上場**であるため、**ガバナンス**のさらなる説明や、**ESG 説明会**の開催を希望する声が寄せられた。これらの結果、この分野において**トップと僅差の第2位**となった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第8位となった。

第3位 Macbee Planet（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点 75.8 点〔昨年度比+4.3 点〕、昨年度第8位〕

- ① 同社（事業内容：**LTV**（顧客生涯価値）予測を強みにマーケティング支援を展開。市場：グロース（2020年3月マザーズ上場）、継続評価企業）は、**ESG 関連**が第4位（66%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第4

位（80%）、説明会等が第5位（78%）、経営陣のIR姿勢等（79%）、自主的情報開示（64%）が同得点第6位となった。

- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」は、同得点第1位となった。これに関連して、説明会、スモールミーティング等を積極的に実施していることを評価する声があった。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は、トップと僅差の第3位となった。これに関連して、課題およびその対策を開示していることを評価する声が寄せられた。一方、「IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していること」（同得点第16位）は、平均得点率と同程度にとどまった。
- ③ 説明会等においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること、また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が第2位となった。これに関連して、ビジネスモデル上、完全な説明は難しいと思われるが、可能な範囲でよく説明している点の評価する声があった。「収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていること」は、第5位となった。これに関連して、必要十分で、適切に開示されていると評価する声が寄せられた。なお、一段踏み込んだKPIの開示を希望する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていること。また、英文による情報提供を行っていること」は、同得点第3位となった。この結果、この分野においてトップと僅差の第4位（昨年度第23位）となった。
- ⑤ ESG関連においては、「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいること」が、同得点第1位となった。これに関連して、Scope2の開示を評価する声があった。また、経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明していること」は、同得点第4位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第6位となった。

上記の**スパイダープラス**、**GMO フィナンシャルゲート**、**Machee Planet**の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以 上

2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (新興市場銘柄)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR前門の機能、IR の基本スタンス 評価項目4 (配点35点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目3 (配点25点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目2 (配点15点)		4. ESGに関連する 情報の開示 評価項目3 (配点20点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示 評価項目1 (配点5点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4192 スパイダーブラス	79.5	29.2	1	21.6	1	12.3	2	12.6	7	3.8	1	
2	4051 GMOフィナンシャルゲート	77.3	29.0	2	19.8	4	11.8	9	13.6	2	3.1	8	6
3	7095 Macbee Planet	75.8	27.8	6	19.6	5	12.0	4	13.2	4	3.2	6	8
4	4431 スマレジ	75.7	28.4	3	19.9	3	12.7	1	11.1	23	3.6	2	2
5	3479 ティーケーピー	74.4	27.5	8	19.0	6	11.9	6	12.8	5	3.2	6	4
6	4485 JTOWER	74.0	27.3	10	18.4	10	11.5	10	13.7	1	3.1	8	13
7	4071 ブラソアルファ・コンサルティング	73.9	27.8	6	20.7	2	11.9	6	11.1	23	2.4	24	
8	4375 セーフイー	73.4	27.2	11	18.7	9	12.2	3	12.8	5	2.5	21	
9	4933 I-ne	73.2	27.4	9	18.1	12	10.8	16	13.4	3	3.5	4	
10	4169 ENECHANGE	72.8	26.7	13	18.2	11	12.0	4	12.3	10	3.6	2	5
11	7133 HYUGA PRIMARY CARE	71.8	27.0	12	18.9	7	10.9	14	11.9	14	3.1	8	
12	4377 ワンキャリア	70.9	26.4	15	18.8	8	10.8	16	11.9	14	3.0	12	
13	6521 オキサイト	70.1	27.9	5	16.1	20	10.6	20	12.5	8	3.0	12	
14	4194 ビジヨナル	70.0	26.4	15	18.0	13	10.9	14	12.4	9	2.3	28	15
15	4435 カオナビ	69.2	26.7	13	17.4	15	10.4	22	12.1	13	2.6	20	9
16	6027 弁護士ドットコム	69.1	24.8	21	17.8	14	11.9	6	11.6	18	3.0	12	12
17	4479 マクアケ	68.5	26.3	17	16.5	17	10.7	18	12.3	10	2.7	17	26
18	7094 NexTone	68.0	28.1	4	16.7	16	9.4	28	11.8	16	2.0	29	
19	4477 BASE	67.2	25.6	18	16.1	20	11.5	10	11.6	18	2.4	24	18
20	4478 フリー	66.3	24.5	24	16.4	18	11.2	13	11.8	16	2.4	24	17
21	7342 ウェルスナビ	65.7	24.5	24	15.7	23	11.4	12	11.4	20	2.7	17	18
22	3491 GA technologies	65.2	23.8	28	15.4	24	10.4	22	12.2	12	3.4	5	23
23	4371 コアコンセプト・テクノロジー	65.0	25.1	20	16.0	22	10.5	21	10.9	26	2.5	21	
24	7373 アイドマ・ホールディングス	64.4	24.8	21	16.2	19	9.7	26	11.3	21	2.4	24	
25	5759 日本電解	64.2	24.5	24	15.0	26	10.7	18	11.1	23	2.9	16	
26	6613 QDレーザ	63.0	25.6	18	14.0	29	10.1	24	10.3	27	3.0	12	25
27	4259 エクサウィザーズ	60.8	22.4	29	14.5	27	9.5	27	11.3	21	3.1	8	
28	4593 ヘリオス	60.1	24.8	21	13.0	30	9.8	25	10.0	28	2.5	21	28
29	7803 プシロード	58.9	24.1	27	15.2	25	8.0	30	9.6	30	2.0	29	
30	4436 ミンカブ・ジ・インフオノイド	54.1	18.0	30	14.4	28	9.0	29	10.0	28	2.7	17	7
	評価対象企業平均点	68.75	25.98		17.20		10.89		11.82		2.86		

2023年度評価項目および配点（新興市場銘柄）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。[1点～15点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
4. ESGに関連する情報の開示（20点）	配点
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。[1点～8点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。[1点～7点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか。[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点
・ウェブサイトでの開示や決算説明会以外での開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアナニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間）[1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5

新興市場銘柄専門部会委員

部会長	古島 次郎	大和証券
部会長代理	渡辺 真理子	UBS証券
	新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	新井 勝己	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
	岩本 誠一郎	アセットマネジメント One
	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
	中川 雅嗣	三菱UFJアセットマネジメント
	納 博司	いちよし経済研究所
	東田 暁	野村アセットマネジメント

評価実施アナリスト（62名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	清水 康之	QUICK
新谷 嘉史	三井住友トラスト・アセットマネジメント	関根 哲	大和証券
姉川 俊幸	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	高 祥太郎	日興アセットマネジメント
新井 勝己	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田村 悦子	みずほ証券
荒木 正人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	田村 真一	極東証券経済研究所
石井 孝一郎	三菱UFJ信託銀行	千葉 馨	JPモルガン証券
石橋 克彦	いちよし経済研究所	都築 伸弥	みずほ証券
伊藤 彰洋	三井住友DSアセットマネジメント	鶴尾 充伸	シティグループ証券
入沢 健	立花証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
岩本 誠一郎	アセットマネジメント One	得永 一樹	大和証券
大浦 裕太	第一生命保険	富田 展昭	極東証券経済研究所
大澤 充周	いちよし経済研究所	中川 雅嗣	三菱UFJアセットマネジメント
大場 剛平	野村アセットマネジメント	中川 義裕	みずほ証券
大牧 実慶	立花証券	長野 義隆	三菱UFJ信託銀行
岡田 大毅	UBS証券	納 博司	いちよし経済研究所
奥村 裕介	岡三証券	西川 周作	大和証券
小澤 公樹	SBI証券	丹羽 孝一	シティグループ証券
勝木 敏徳	野村証券	長谷川 義人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	原田 大輔	QUICK
河内 亮	丸三証券	東田 暁	野村アセットマネジメント
栗原 智也	SBI証券	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
栗山 乾一	三井住友トラスト・アセットマネジメント	福井 悠香	第一生命保険
古島 次郎	大和証券	藤根 靖晃	ティー・アイ・ダヴリュ
小林 亮	みずほ証券	宝水 裕圭里	SBI証券
齊藤 博之	水戸証券	松浦 勇佑	丸三証券
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	三浦 勇介	大和証券
佐竹 一仁	ニッセイアセットマネジメント	柳本 和紀	三菱UFJ信託銀行
佐藤 啓吾	ニッセイアセットマネジメント	山口 秀丸	シティグループ証券
佐野 滉介	第一生命保険	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
佐原 孝輔	丸三証券	山本 真以人	ニッセイアセットマネジメント
鮫島 豊喜	SBI証券	吉田 正夫	いちよし経済研究所

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。